

令和4年度事業報告

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社

目次

1	会社の現状	1
2	令和4年度の振り返り	1
(1)	法人運営	1
(2)	事業運営	3
ア	介護予防の取組	3
イ	地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の充実	3
ウ	認知症当事者と家族介護者支援の拡充	3
エ	医療介護連携の推進	4
オ	地域共生社会の充実	4
3	重点プロジェクト	4
(1)	ケースカンファレンス（事例検討会）の推進	4
(2)	だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実	5
(3)	先駆的な家族介護者向け支援の創出	5
(4)	調査研究開発の推進	6
(5)	福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実	6
4	実施事業	7
(1)	住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充	7
ア	有償在宅福祉サービス事業	7
イ	生活支援コーディネーター事業「ちょこっとさん」	11
ウ	在宅福祉サービスに関する相談事業	12
(2)	認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援－	13
ア	認知症サポーター養成講座事業	13
イ	家族介護者支援事業	14
(3)	フォーマルサービスの充実	16
ア	調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業	16
イ	調布市地域包括支援センターゆうあい事業	18
ウ	軽度生活援助事業	25
(4)	介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進	25
ア	訪問介護事業，障害者訪問介護事業	25
イ	居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業	26
ウ	デイサービスぷちぽあん事業	27
(5)	公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進	29
ア	普及啓発事業	29
イ	人材育成事業	32
ウ	調査研究開発事業	34
(6)	健全な公社運営	35
ア	法人運営及び組織体制の強化・充実	35
イ	自主的，自立的経営に向けた財政基盤の強化	38

5	その他の報告事項	39
(1)	役員等及び会議に関する事項	39
ア	役員等名簿	39
イ	会議の開催	39
(2)	公社外部委員会等一覧表及び実習生受入実績	41
ア	公社外部委員会等一覧表	41
イ	実習生受入実績	42
(3)	職員研修の実績	42
ア	業務研修	42
イ	社内研修	44
(4)	事業報告書附属明細書について	44

1 会社の現状

猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、最近では沈静化の兆しもうかがえ、公社も「かつての日常」を取り戻しつつあります。ロシアによるウクライナ侵攻以降、世界的な物価高騰が続く状況は、公社の経営を圧迫する大きな懸念材料です。特に、食事サービス事業においては、食材費・燃料費等の大幅な高騰で、既に同業の複数の他社が弁当の値上げを実施している状況等もあり、今後の動向を注視する必要があります。高齢化や人口減少により、国全体の雇用情勢が変容するなかで、一段と人材確保が難しさを増しています。公社では、その解消策の一つとして、新たに限定正社員制度を設けましたので、その活用を図ります。自主事業については、居宅介護支援事業で欠員補充ができていない状況が続いていることから、収支均衡の達成が厳しい可能性があります。新たに創設した限定正社員制度も活用し、早急な人材の確保を目指します。なお、他の2事業（訪問介護・入間町デイサービスぷちぼあん）については、安定した経営状況で、今後もその維持に努めます。令和5年度は、第2次中期計画（平成30年度～令和5年度）の最終年度にあたることから、本計画の総括を行うと共に、第3次中期計画（令和6年度～11年度）の策定に取り組みます。

2 令和4年度の振り返り

(1) 法人運営

新型コロナウイルス感染症の拡大で、7月の下旬から8月にかけて、食事サービス事業を開始してから初めて、調理部門が活動を停止するという事態が発生しました。幸い、配達部門は通常の活動が可能であったことから、ご利用者様には事情をご説明申しあげ、ご希望された方には、他社から購入した弁当をお届けする形で、必要な方々にお食事をお届けしました。同様に12月には、調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業で、複数の職員等が新型コロナウイルス感染症に罹患したことから、2日間の休業を余儀なくされました。そのほか、特に6月から8月にかけての時期は、職員等に罹患するあるいは濃厚接触者が多数発生し、複数の係で、通常業務を維持するために、勤務シフトを変更する等の対応を行いました。

経営面では、令和3年度中期に、職員の欠員から特定事業所加算を喪失した居宅介護支援事業において、欠員が埋まらずに、収支均衡を欠いた状況が続いています。他の自主2事業の運営は順調に推移し、自主事業総体では若干の赤字となりました。その他収入を含めた法人全体の収支は、均衡を保つことができました。人材の確保を図るために、自主事業で新たに限定正社員制度を創設しました。他部署への異動が無いなど、従来の正規職員とは異なった雇用形態の正社員制度であり、本制度により、自主事業の運営の安定化を目指します。

調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業について、調布市の担当部署と令和6年度に委託業務の仕様の見直しを行う方向で協議を重ねました。協議の内容は、現在、同事業で実施している、①認知症対応型通所介護、②通所介護及び総合事業通所型サービス（国基準）、③総合事業通所型サービス（市基準）の3事業を、①認知症対応型通所介護、②総合事業通所型サービス（市基準）の2事業に変更するもので、これにより、調布市の施策である総合事業通所型サービス（市基準）の拡

充を図ります。同様に、入間町デイサービスぷちぼあん事業についても、令和6年度に自主事業から市の委託事業への移管を目指すという方向で協議を重ねました。

公社全体のBCP（事業継続計画）の策定に取り組みました。これについては、令和5年度の完成を目指しています。福祉講演会やケアラー学習会、また、だれでもカフェ等のイベント系の事業は、順調に開催ができました。特に、だれでもカフェぷちぼあんは、3年振りの開催となり、11人の参加者が久しぶりに対面で交流を図りました。フレイル予防に関する調査研究開発では、調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業の総合事業通所型サービス（市基準）のご利用者様を対象に、食品摂取アンケート調査を行うとともに、低栄養予防講座を開催しました。1月には、協力会員の方々を対象とした低栄養予防講座も開催しました。

協力会員の方々を対象とした研修は、令和4年度は順調に開催が進み、参加者も延べで100人を超えました。また、主に公社の職員を対象としたケースカンファレンスや全体研修も開催は順調で、活発な議論を交わす場となりました。

住民参加型事業では、利用会員・協力会員の減少を食い止めることが積年の課題となっていますが、令和4年度も、目標値であった280世帯、280人の達成はできませんでした。しかしながら、利用会員については、令和3年度と比較し微増しています。また、ホームヘルプサービス・食事サービス共に利用回数・提供数が増えていることから、協力会員の活動そのものは、活性化しているものと推察されます。今後、会員ごとの稼働回数や稼働率についても注視しながら、新規会員の獲得に努めます。

ケアラー支援では、調布市の補助を受け、市内のケアラー団体と連携を図りながら、ケアラーサポートブックを作成しました。また、個別の支援では、若年性認知症当事者やヤングケアラーへのホームヘルプサービスの提供についても取り組みました。令和5年度は、市の委託を受け、ヤングケアラー・コーディネート事業を開始します。認知症施策では、調布市内でのチームオレンジの立ち上げ準備を進めました。

食事サービス事業では、これまで新たに配達活動に携わる協力会員を対象に、新人フォローアップ研修を毎年度1回開催してきました。しかし、平日は仕事のため、土曜日・日曜日限定で活動を希望する協力会員が増えてきた現況を踏まえ、令和4年度は土曜日に2回開催しました。また、調理活動を担う協力会員については、従前より高齢化の進展という課題がありましたが、令和4年度は、現活動者と共に「調理活動を考える会」を開催し、作業工程の見直しや活動期限の延長等について検討を行いました。

地域包括支援センター事業では、令和4年度は、地域での市民活動や様々な行事が再開し始めたのに併せて、調布市から委託を受けている普及啓発事業を活性化させました。一方で、医療機関や施設でのクラスター発生や、新型コロナウイルス感染症の陽性で自宅療養となった高齢者の生活支援など、これまで経験のない事態に直面することも多く、地域の居宅サービス事業者やケアマネジャー等との連携や情報共有の重要性について、再認識をした年度となりました。

介護保険事業（入間町デイサービスぷちぼあん事業・訪問介護事業・居宅介護支援事業の自主3事業）では、ぷちぼあん事業で稼働率に変動はありましたが、比較的安定した運営で推移しました。

訪問介護事業では、担い手の確保が難しいことから、障害者訪問介護事業を休止しました。現にご利用されておられた方々へは、丁寧な説明を行った後に、他事業所への移行を行いました。また、事務の効率化や職員の業務負担の軽減を図るため、記録システムを導入し、職員が働きやすい職場環境作りに努めました。居宅介護支援事業では、職員の欠員が埋まらず特定事業所加算の再取得がかなわなかったことから、大きく収支のバランスを欠く結果となりました。これを解消するために、令和5年度は限定正社員制度を導入し、再度、特定事業所加算の取得を目指します。

(2) 事業運営

ア 介護予防の取組

令和4年度も、コロナ禍で、巣ごもり生活が長くなった高齢者が増え、身体や認知機能の衰えを不安視する声が多く聞かれました。フレイル予防に向けた取り組みとして運動面の充実を図るだけでなく、令和3年度に引き続き、栄養面にも着目し低栄養予防の講義を行い、行動変容に向けた普及啓発にも取り組みました。

令和4年度は、調布市と調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業の見直しについて協議を行いました。令和5年度も高齢者を取り巻く現状を踏まえ、運動面におけるフレイル予防をさらに充実させる体制の構築について、提案していきます。

イ 地域の福祉人材の発掘・育成に向けた研修の実施

公社の住民参加型事業に、協力会員の存在は不可欠です。協力会員は、公社事業の原動力であり、地域に欠かすことのできない福祉人材です。しかし現況は、新規加入者より退会者の方が多く、減少に歯止めがかからない状況です。

一方で、日本の国内においても、高齢化と人口減少に伴う人手不足が、社会全体の問題となっています。そうした厳しい環境のなか、公社では福祉人材の確保に向け、新たな試みとして、QRコードやズーム等のツールの活用について検討を行いました。それにより、従来の層に限らず、広く現役世代にも情報の発信を行うもので、令和5年度から実施します。今後も情報の発信については、様々に工夫をします。

ウ 認知症当事者と家族介護者支援の拡充

認知症サポーター養成講座事務局として、地域の自治会や企業、学校など幅広い世代に向け講座を開催し、1,059人の認知症サポーターを養成しました。

認知症当事者のニーズを橋渡しする「調布市版チームオレンジ」については、市内団体や他自治体の取り組みについて情報収集を行い、地域包括支援センターや地域福祉コーディネーター等と連携しながら取組を進めました。

家族介護者の支援では、市内のケアラー支援団体の協力を仰ぎ、令和3年度から準備を進めてきた、調布市版ケアラーサポートブック（ケアラー手帳）を発行しました。

このほか、ケアラーを支える人材の育成を目的に、新規事業として「ケアラーを支えるための講座」を開催し、ケアラー支援の拡充を図りました。

エ 医療介護連携の推進

令和4年度は、引き続きコロナ禍で、各種職能団体や行政機関等による会議の多くは、オンライン形式、あるいは一部参集で他はオンライン形式をとるハイブリッド型で、開催されました。

医療機関との連携では、院内のカンファレンスルームにオンライン環境を整えた医療機関が増えたことで、介護体制を整える介護支援専門員、並びに地域包括支援センター職員等と、オンラインでの会議が可能になり、連携がしやすい環境となりました。

令和5年度も職員一人一人のオンライン環境整備やIT化に注視した連携推進ができるよう努めます。

オ 地域共生社会の推進

令和4年度の福祉講演会では、東京慈恵会医科大学の梶井文子助教を講師にお招きし、「自分事として考えよう～認知症のバリアフリー社会とは～」のテーマで、講演会を行いました。参加者からのアンケートでは、地域とのつながりや社会参加の重要性を再認識できたとの声を、多くいただきました。

住民参加型事業では、近年顕在化してきたヤングケアラー等の制度の狭間にあるケースや、複合的な課題が重なったケースを、ソーシャルワーカーが丁寧に関わり、支援を行いました。引き続き、地域での様々な機関とのネットワークを強化し、地域共生社会の推進に努めます。

3 重点プロジェクト

(1) ケースカンファレンス（事例検討会）の推進

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	ケースカンファレンスの実施	月1回 公開研修1回	年12回 公開研修2回 外部連携3回
	ゆうあいチャレンジプログラム	1回 外部連携実施	1回 外部連携なし
評価等	○ケースカンファレンスの実施 住民参加・居宅介護支援・地域包括支援センター事業の相談援助職を中心に、延べ249人(職員以外6人含む)が参加しました。それぞれの経験、知識を広く共有することで、専門職の資質向上、自己研鑽及び相談対応力の向上につながりました。また、社会福祉士の資格取得を目指す学生の実習プログラムにも組み込み、学びの場を提供しました。		

	<p>○ゆうあいチャレンジプログラム</p> <p>ケースカンファレンスの意義，相談援助職による倫理の確認，職員間の信頼関係の強化ワークを実施することで，職種を超えた連携，協力体制の強化につながりました。</p>
--	--

(2) だれでもカフェ（認知症カフェ）の充実

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	だれでもカフェこくりょう	月1回 若年性認知症当事者含む	年12回 延べ利用者190人
	だれでもカフェぶちぼあん	不定期開催	1回 (利用者11人)
評価等	<p>○だれでもカフェこくりょう</p> <p>毎月1回開催の再開後も利用を控える方が多く見受けられましたが、「集える場所」を心待ちにしていた方も多くいました。密にならない環境等の整備や，参加者，ボランティアの感染症対策を徹底し，家族介護者が気軽に相談できるよう開催しました。認知症当事者や家族介護者等の必要とする方に情報が届くよう，より効果的な広報も課題です。</p> <p>○だれでもカフェぶちぼあん</p> <p>令和4年9月4日(日)に開催しました。</p>		

(3) 先駆的な家族介護者向け支援の創出

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	家族介護者向け介護技術講座	① 家族介護者向け介護技術講座 2回 ② 家族介護者向け出張介護技術講座 随時	① 2回 ② 1回
	ホームヘルパー出張派遣	随時 相談があった際に，迅速に対応する。	相談3件・派遣2件

評価等	<p>○家族介護者向け介護技術講座 ぷちぽあんにおいて、参加者が介助される側の体験をする機会を提供し、介護者に負担のかからないベッド上の介護方法や車いすへの移乗方法等のコツを伝えました。参加者同士の情報交換や、高齢者支援の施策に関する質疑応答を行いました。</p> <p>○家族介護者向け出張介護技術講座 飛田給地区協議会の主催する地域防災訓練に車いす実技の講師として参加をしました。</p> <p>○ホームヘルパー出張派遣 ケアマネジャーの相談依頼に対して状況を確認し、迅速に派遣しました。</p>
-----	---

(4) 調査研究開発の推進

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	事業提案	実効性の可否を検討	提案数 17件 二次審査通過 8件
	介護予防、フレイル予防調査 (実証研究調査)	データの集積・調査 内容と方法について 検討	アンケート 3回 体力測定 2回
評価等	<p>○事業提案 事業提案については、11人の職員から17件の提案がありました。8件の提案のうち1件を事業推進、1件をモデル事業化、その他の提案は所管係の検討課題としました。</p> <p>○介護予防フレイル予防 前年度の研究結果を受けて、低栄養予防よりも、生活習慣病予防への関心が高く、低栄養予防の普及啓発が必要であることがわかりました。本年度は、総合事業通所型市基準サービス（市基準）のご利用者様に対し、ミニ栄養講座を開催しました。また元気なうちから低栄養予防に関心を持ち、行動変容を促すために、一般高齢者である協力会員向けに管理栄養士による低栄養予防講座を開催しました。また地域の集い場である団体にも出向き、咀嚼に対する関心を深め、食を意識する勉強会を開催しました。概ね目標を達成し、調査研究開発の推進を図ることができました。</p>		

(5) 福祉人材の育成・発掘に向けた研修の充実

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	各種研修の実施	<p>① 協力会員、登録ボランティア等への研修の充実</p> <p>② 公社運営に携わるプロパー職員への研修の充実</p>	<p>① 参加者 209人</p> <p>② 全体研修「私たちのプロ意識を考える」 令和4年12月22日(木) 参加者 35人</p>

	介護職カフェ (介護技術勉強会)	4回以上	4回 延57人(延11事業所)
評価等	<p>○介護職カフェ 感染症対策をし、予定通り年4回開催しました。市内の介護職員へ周知し、介護人材の確保・育成、介護職集いの場としての役割も担いました。</p> <p>○各種研修の実施 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため定員を減らして実施しました。協力会員定例研修を4回、食事サービスに関わる協力会員向けに安全運転、食品衛生講習会を実施しました。</p>		

4 実施事業

(1) 住民参加を基盤としたインフォーマルサービスの拡充

ア 有償在宅福祉サービス事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	利用会員数(世帯)	280世帯	276世帯
	協力会員数	280人	227人
	協力会員説明会(定期・随時)	30回以上	56回
評価等	<p>○利用会員数(世帯) 令和3年度から29世帯増えましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、目標値には届きませんでした。</p> <p>○協力会員数 新型コロナウイルス感染症や高齢、健康不安等により退会された方が52人いた一方、新規は34人に留まり目標には届きませんでした。</p> <p>○協力会員説明会(定期・随時) 予定通り定期開催の説明会を実施し目標は上回りました。</p>		

(a) 利用会員の状況

令和4年度末の世帯数は276世帯で、目標の280世帯には届きませんでした。新型コロナウイルス感染症により一時大きく減少しましたが、徐々に新規利用が増えてきています。ホームヘルプサービス事業、食事サービス事業はソーシャルワーカーが個々の利用会員のアセスメントを踏まえ、必要性に応じ、密を回避しながら提供しました。また、ソーシャルワーカーが利用会員に都度連絡し、関係機関と連携しながら日常生活を支援しました。新型コロナウイルス感染症拡大で、人々の活動や行動が縮小し、「孤立・孤独」を訴える高齢者が増えています。コロナ禍で変化した生活のなかで、新たに必要とされるニーズの発見に努め、市民相互の助け合い活動で支援していきます。感染症対策に留意しながら引き続き、利用会員の生活を支援していきます。

(単位：世帯)

区分		令和4年度	入会・退会	増減	令和3年度
高齢者		259(94%)	(入会) 148 (退会) 118 (移動) 1 (※1)	31	228(92.3%)
障害者		7(2.5%)	(入会) 5 (退会) 6 (移動) △1 (※1)	△2	9(3.7%)
病弱者		9(3.2%)	(入会) 6 (退会) 5	1	8(3.2%)
ひとり親家庭等		1(0.3%)	(入会) 0 (退会) 1	△1	2(0.8%)
合計	年度末世帯数	276(100%)	—	29	247(100.0%)
	会員数	341人	—	43	298人

(※1) 障害者世帯から高齢者世帯へ移動

(b) 協力会員の状況

令和4年度末の登録人数は227人で目標には届かず、担い手不足の状況が続いています。令和4年度もコロナ禍による長期的な活動自粛の影響で活動を中止する方も多くいました。

従前からの課題として、協力会員の居住地域や年齢層の分布に偏りがあります。助け合いが地域の隅々まで多世代にわたり展開できるよう、効果的な広報に努めていきます。また、地域の担い手として、大きな力として期待される元気な高齢者の方の参加促進に取り組んでいきます。

(令和4年度実績)

区分	協力会員	月平均
入会者	34人	2.8人
退会者	52人	4.3人
令和5年3月末登録者数 (令和4年3月末)	227人 (245人)	—
月末登録者累計人数	2,703人	225.3人
活動者実数(各月合計)	1,603人	133.6人
ホームヘルプサービス	792人	66人
食事サービス	916人	76.3人
活動率(令和3年度活動率)	59.3%(51.7%)	

※ 活動者実数は、複数の活動に参加する会員もいるため、内訳の合計とは

一致しない。

※ 活動率（％）＝活動者実数÷月末登録者累計人数

(c) ホームヘルプサービス

令和4年度は、延べ792人の協力会員が、延べ1,638世帯へ6,786.5時間のサービスを提供しました。昨年度に比べ提供時間は20.2%増加しました。介護保険や障害福祉等の公的な制度・サービスの利用に至るまでの間、地域包括支援センター等と連携を図りながら協力会員の可能な範囲で支援をしました。公的なサービスにつないでいく支援のほか、若年性認知症当事者の通勤の付き添いの支援やヤングケアラーの負担軽減のための掃除や調理の支援等、制度の狭間のケースを支援しました。有償在宅福祉サービス事業を実施する近隣4市の同事業の担当者へ呼びかけ、現状の課題や工夫等の共有を図るために情報交換会を開催しました。引き続き、会員双方のニーズに応えながら、地域の助け合い活動を広げていきます。

(対象者別利用時間数及び回数)

区分		令和4年度		令和3年度	
		合計	月平均	合計	月平均
利用者数		1,638世帯	136.5世帯	1,416世帯	118.0世帯
利用回数		5,144回	428.7回	4,323回	360.3回
高齢者	総数	5,868.0時間	489.0時間	5,049.5時間	420.8時間
	単身	2,720.0時間	—	2,411.0時間	—
	夫婦	1,206.5時間		1,054.5時間	
	同居	1,941.5時間		1,584.0時間	
障害者		578.5時間	48.2時間	240.5時間	20.0時間
病弱者		340.0時間	28.3時間	354.0時間	29.5時間
ひとり親家庭等		0時間	0時間	0時間	0時間
利用時間 計		6,786.5時間	565.5時間	5,644.0時間	470.3時間

(d) 食事サービス

公社の食事サービス事業は、毎月80人前後の「おなかまランナー」（食事サービスを担う協力会員）の皆様が定期的に活動に入り、公社の食事を必要とする利用会員へ手作りのお食事をお届けしています。

令和4年度は、おなかまランナーの皆様と38,857食（デイサービスへの食事提供も含む）提供できました。

利用会員への配食では、新規や増食を希望される方に対して、職員が生活状況等を聞き取り優先度判定に基づき導入を進めた結果、延べ98人、1,566食

増加し、コロナ前の実績に近づきつつあります。

担い手となる「おなかまランナー」を増やす取組は、定期的な登録説明会の開催、広報のほか、栄養系大学等へのチラシの配付により、延べ29人（研修者含む）増えてきましたが、より一層、仲間を増やす取組が必要です。

また、市内で配食事業を展開している事業所による食事サービス事業者連絡会では、人手不足に加え、物価高騰に伴う経費の増加が各社共通の課題であることなどが認識できました。公社としても、栄養価を維持しながら、食品ロスの削減など経費の節減に努めていますが、販売価格の検討等、調布市と相談しながら進めていく必要があります。厨房設備の機器についても、コンベア式食器洗浄機を始め、耐用年数を超えている機器の入替も計画的に行っていく必要があります。

食事サービス利用状況

区分	令和4年度		令和3年度	
	延べ合計	月平均	延べ合計	月平均
会員利用者数	1,780人	148.3人	1,682人	140.2人
利用総食数	38,857食	3,238.1食	37,559食	3,129.9食
会員配食	31,840食	2,653.3食	30,274食	2522.8食
国領通所	4,657食	388.1食	5,088食	424.0食
ぷちぼあん	2,100食	175.5食	2,081食	173.4食
その他	260食	21.7食	116食	9.7食

食事サービス週当たり利用日数／各年度3月利用者

(単位：世帯)

区分		週1	週2	週3	週4	週5	週6	週7	合計
昼食	令和4年度	5	8	5	7	4	2	4	35
	令和3年度	3	6	9	5	3	2	4	32
夕食	令和4年度	12	19	12	12	4	6	15	80
	令和3年度	10	15	12	10	5	5	17	74
昼夕食	令和4年度	1	0	4	2	2	2	8	19
	令和3年度	1	0	4	2	2	1	7	17
合計	令和4年度	18	27	21	21	10	10	27	134
	令和3年度	14	21	25	17	10	8	28	123

食事サービス月当たり利用者区分／各年度3月利用者（会員）

区分		令和4年度		令和3年度	
		世帯数	人数	世帯数	人数
高齢者	単身	66世帯	66人	63世帯	63人
	夫婦	29世帯	47人	21世帯	30人
	同居	33世帯	40人	29世帯	32人
障害者		1世帯	1人	4世帯	4人
病弱者		4世帯	5人	4世帯	5人
ひとり親家庭等		1世帯	3人	2世帯	4人
合計		134世帯	162人	123世帯	138人

※各区分の人数は世帯員等の内3月食事サービス利用者

(e) 福祉施設へのサービス提供（食事サービス）

入間町デイサービスぷちぽあん及び調布市国領高齢者在宅サービスセンター、子ども家庭支援センター「すこやか」のご利用者様へ継続的に食事サービスを提供しています。

(f) 会員交流事業

公社会員（利用・協力・賛助）を対象に、会員相互の交流を図る目的で、ハーブ演奏のコンサートを開催し19人が参加し、交流を深めました。

(g) 会員慶弔

利用会員の誕生日に御自宅を訪問し、ミニブーケを届けました。逝去に際しては、弔電で弔意を表しました。

イ 生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」

第2次中期 計画 目標・成果 指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	利用件数	140件	108件
	登録ボランティア数	110人	116人
評価等	<p>○利用件数 令和3年度より微減となり、目標値には達しませんでした。引き続き、活動できるボランティアの確保、事業の広報に努めていきます。</p> <p>○登録ボランティア数 目標値には達しましたが、いつでもどこでも活動できるボランティアを増やす取組が求められています。事業の趣旨、地域の助け合いを周知していきます。</p>		

ソーシャルワーカーが、ひとり暮らし高齢者などから、電球交換や荷物の上げ下ろし等のちょっとした困りごとの相談に応じ、登録ボランティアが困りごとの対応にあたりました。ソーシャルワーカーが関わることで、「ちょっとした困りごと」の対応と併せ、ひとり暮らし高齢者の孤立防止やソフトな見守り等の支援ができました。

また、「ちょこっとさん」での解決が難しい依頼には、ソーシャルワーカーが他の解決方法等の情報を提供しました。

令和4年度も、令和3年度同様、感染症対策としてご利用者様・ボランティアの双方の安全を確認するため、ソーシャルワーカーがボランティアに同行しながら実施しました。

本事業が、住民参加型で行われることで、地域社会のつながりの活性化の一助になると考えています。引き続き、困りごと解決のほか、見守りや市民の活躍の場の提供等、適切なコーディネート、情報提供に努めていきます。

事業名	実施内容	利用件数, 参加者数等
生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」	30分程度でできる「ちょっとした」お手伝いをソーシャルワーカーが登録ボランティアをコーディネートして、困りごとを解決	相談件数：140件 利用件数：108件 登録ボランティア：116人 ※登録ボランティア説明会は、協力会員説明会と合同開催

ウ 在宅福祉サービスに関する相談事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実	受付窓口担当の配置	受付窓口担当を終了
	休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援）	営業時間外の専門職による受付体制	営業時間外は専門職が携帯電話で受付
評価等	<p>○受付窓口（電話，来所，訪問など）対応の充実 受付窓口の配置を終了しましたが，来所された方の案内は職員が適宜行いました。</p> <p>○休日，夜間の電話相談の受付体制（地域包括支援センター，居宅介護支援） 午後6時15分以降は携帯電話へ転送により受付（地域包括支援センター，居宅介護支援）と留守番電話による伝言受付（法人）により，適宜行いました。</p>		

高齢者を中心に，障害者，病弱者及びひとり親家庭等の総合相談の窓口として，

在宅生活における介護などの様々な相談に応じました。また、地域の機関と連携しながら、公社の持つ情報やネットワークを駆使し、問題解決に向けた支援を行いました。365日対応することで、市民の皆様にもいつでも相談できる安心感を与え、信頼関係を築くことができました。

医師及び弁護士による相談事業は、個人に限らず市内事業所の専門職等にも門戸を広げ、地域で福祉や介護サービスを担う人材へのサポートや資質向上に努めました。

事業名		令和4年度	令和3年度	備考
在宅福祉サービスに関する生活相談	電話	5,035件	6,557件	ソーシャルワーカーによる相談
	来所	153件	209件	
	訪問	1,256件	1,514件	
	その他※	993件	1,758件	
	計	7,437件	10,038件	
医師による健康相談	内科	5件	7件	医師による相談
	精神科	8件	6件	
弁護士による法律相談		9件	8件	弁護士による相談
福祉用具などの相談, 貸出, 紹介		168件	161件	貸出件数
総合計		7,627件	10,220件	

※ 電話・来所・訪問の分類に入らない手段（事業利用時・メール等）での相談。

(2) 認知症施策の推進－認知症当事者とその家族への支援－

ア 認知症サポーター養成講座事業

第2次中期計画 目標・成果指標	項目	目標値 令和4年度	実績
目標・成果指標	認知症サポーター数（年度）	1,000人以上	1,059人
	認知症サポーターフォローアップ研修	2回	2回（66人）
評価等	<p>○認知症サポーター数（年度） 定例で開催する6回の養成講座に加えて、市内の小中学校、児童館、企業、薬局、介護事業所等で開催し、目標を超える参加がありました。</p> <p>○認知症サポーターフォローアップ研修 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため1回の開催となりましたが、定員数を減らすなどの対応をしながら2回開催することができました。</p>		

認知症になっても、安心して暮らし続けられるまちを目指して、地域の自治会や企業、学校など幅広い世代に向け、本講座を開催し、認知症の方やその家族の応援者となる認知症サポーターの養成に努めました。

「調布市版チームオレンジ」の立ち上げに向けて、職員の研修受講や他自治体及び市内団体の情報収集に取り組みました。

認知症サポーターフォローアップ体験施設見学会については、新型コロナウイルス感染症の影響があり開催はしませんでした。

事業名及び内容		回数	参加者数
認知症サポーター養成講座	地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施、キャラバンメイトの調整・派遣	35回	1,059人
認知症サポーターフォローアップ研修	認知症当事者、ケアラーの理解を深めるための講義・体験	2回	66人
認知症サポーターの活躍の場リスト	認知症サポーターの活躍の場情報を更新し、認知症サポーター養成講座受講者に配布	1回	—

イ 家族介護者支援事業

家族介護者にとって安心できる居場所の提供や、市内にある「家族介護者の居場所」等の情報提供、また、自宅で介護している家族に有効な介護技術の講習会を開催することで、家族介護者を支援しました。

介護している家族の方が一息つける居場所を提供するための「だれでもカフェ」は、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大時に中止しましたが、令和4年度は予防策を講じながら、計画通り毎月1回開催しました。家族介護者向けの介護技術講座には、128人が参加しました。市内の家族介護者の居場所の情報を発信する「ケアラー支援マップ」は最新の情報に更新し、市内全戸に配布しました。

また、ケアラーを支えるグループの学習会として「ケアラー支援団体の情報交換会」のほか、「ケアラーを支えるための講座」など3回開催しました。情報交換会では他市で活動している講師を招き、他市の取組の話聞き、市内の団体同士で情報交換を図り日頃の支援を振り返る機会となりました。新規事業のケアラー支えるための講座は、8人の介護経験者とともケアラーを支えるために何が必要なのかを考える場となりました。

ケアする日常が当たり前で、自身が「ケアラー」であることやサポートが必要であることに気づいていない、また、サポートがあることを知らない方々の手に届くよう「ケアラーサポートブック」を令和5年3月に1,500部発行しました。先輩ケアラーからの経験談や地域の相談機関などを掲載しました。

第2次中期計画 目標・成	項目	目標値 令和4年度	実績
	だれでもカフェ	150人	190人

果指標	認知症高齢者等を介護するケアラー（介護者）支援マップ	更新・発行	1回更新・発行
	家族介護者向け介護技術講座	10人（出張介護技術講座含む）	128人
評価等	<p>○毎月1回開催の再開後も利用を控える方が多く見受けられましたが「集える場所」を心待ちにしていた方も多くいました。密にならない環境等の整備や、参加者、ボランティアの感染症対策を徹底し、家族介護者が気軽に相談できるよう開催しました。認知症当事者や家族介護者等の必要とする方に情報が届くよう、より効果的な広報も課題です。</p> <p>○家族介護者向け介護技術講座は参加者一人ひとりの困りごとに沿いながら実施できました。令和4度は出張介護技術講座として、飛田給地区協議会の主催する地域防災訓練に車いす実技の講師として参加をしました。</p>		

事業名		実施回数	参加者数	備考
家族介護者支援事業	だれでもカフェ（認知症カフェ）	月1回 （計13回）	参加者 延べ190人	<p>○だれでもカフェこくりょう（毎月第4日曜日）※10の筋力トレーニング、ハンドベル、男性介護者のつどい等</p> <p>○だれでもカフェぷちぼあん 令和4年9月4日（日） 参加者11人</p>
	調布市認知症高齢者等を介護するケアラー支援マップの改訂	年1回	発行13万部 （内12万8,000部を市内全域にポスティング、2,000部を関係機関に配架等）	令和5年2月5日（日）広報紙ゆうあい25号にて第11版を掲載。ケアラーを支えるグループ15件、相談窓口、地域密着型サービ等の情報を掲載
	家族介護者向け介護技術講座	年3回	128人	<p>○「体感して学ぶ介護のコツ」をぷちぼあんで開催 令和4年9月4日（日） 参加者3人</p> <p>○飛田給地区協議会防災訓練 令和5年3月5日（日） 参加者92人</p> <p>○傾聴の基本を学ぼう</p>

				令和5年3月16日(木) 参加者33人
	ホームヘルパー 出張派遣(再掲)	随時	相談3件 派遣2件	ケアマネジャーの相談 依頼があり、状況を確認 して迅速に派遣対 応しました。
	ケアラーを支えるグループ の学習会	年3回	58人	○ケアラー支援団体情 報交換会 令和5年2月22日(水) 参加者17人 ○傾聴の基本を学ぼう 令和5年3月16日(木) 参加者33人(再掲) ○ケアラーを支えるた めの講座 令和5年2月3日(金)・ 10日(金)・17日(金) ・24日(金)全4回講座 参加者8人 ※2月10日は雪のため 中止。
	ケアラーサポートブック	年1回	発行1,500部	○令和5年3月発行。市、 包括支援センター等 関係機関、ケアラー支 援団体、市民へ配布。

(3) フォーマルサービスの充実

ア 調布市国領高齢者在宅サービスセンター事業

第2次中期計画 目標・成 果指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	延べ利用者数	9,460人	5,867人
	延べボランティア数	880人	323人
評価等	<p>○延べ利用者数 利用者数においては、人員体制が整わず新規受け入れを制限した期間、また入院・入所で長期休みをされる利用者も多く、目標を下回りました。</p> <p>○延べボランティア数 ボランティアについては、自主的にボランティア活動を自粛された方も多く、目標値を大きく下回っています。</p>		

令和4年度は毎月定期的に職員全員の抗原検査を実施し、感染症対策を強化して

継続的にサービス提供を行いました。

ご利用者様の個々の状況については、職員間で情報共有し、関係機関とも連携を図りました。特に医療機関と密に連携を取り、看取りのご利用者様を受入れるなど、他事業所で受け入れることが難しいご利用者様やご家族様へ迅速丁寧な対応ができました。

令和4年度のご利用者様延べ人数は目標達成には至りませんでした。人員体制が整わずに新規受入を一時的に制限していたため、ご利用者様の延べ人数が伸び悩み、目標を大きく下回りました。

総合事業通所型サービス（市基準）については、令和2年度より実施した新型コロナウイルス感染症対策（実施時間を短縮し2部制）を継続しています。引き続き、市と連携して積極的な事業展開を進めていきます。

通所介護では、令和4年度は新たに看護師を1名採用し、幅広い医療ニーズの受け入れ態勢を推進しています。引き続きご利用者様の身体の状態に合わせて機能訓練指導員を中心に身体機能の維持・改善プログラムを継続実施しています。

認知症対応型通所介護では、日本版BPSDケアプログラムを活用し、より良いご利用者様のケアに繋がるよう現場での実践に取り組みました。要介護度の重度化や医療ニーズの高いご利用者様の受入などより個別ケアの必要性が高まっています。引き続きケアプログラムを活用しながら、介護度や認知面の変化に合わせてご利用者様の個別ケア強化を進めていきます。

区分		令和4年度	令和3年度
通所介護	延べ人数	2,658人	3,234人
	1日平均	8.6人	10.8人
総合事業（国基準）	延べ人数	255人	438人
	1日平均	0.8人	1.5人
総合事業（市基準）	延べ人数	1,251人	1,133人
	1日平均	8.1人	7.4人
認知症対応型通所介護	延べ人数	1,703人	1,365人
	1日平均	5.6人	4.6人

(a) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、ご利用者様の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加していただきました。感染症対策を講じ2回開催いたしました。

開催日
令和4年9月14日(水)
令和5年2月15日(水)

(b) 家族会

感染症対策を講じ、参加者の協力を得て開催しました。具体的な相談内容に対して、介護の成功体験を交えた実践方法を介護者へ伝えるなど、介護者同士が安心して気持ちを吐露できる場を提供することができました。介護の共通の課題や認知症の症状からくる生活の大変さを共有することができました。令和4年度も令和3年度に引き続き土曜日に開催し、介護者を取り巻く様々な立場の方々の参加がありました。

開催日	参加者数
令和4年10月15日(土)	6人
令和5年2月25日(土)	5人

(c) 地域福祉交流育成

令和4年度はコロナ禍の影響でボランティア活動自体を辞めてしまう方や、感染症予防のため、自主的にボランティア活動を自粛された方などがあり、目標値を大きく下回りました。

中学生職場体験は実施団体より見合わせの通知があり令和4年度の実績はありませんが、教員免許法における介護等体験事業は感染症対策を講じて受入れを行いました。

今後も社会情勢に注視し、感染症対策を行なった中で受入れを検討し、地域とのつながりに向けて発信していきます。

区分		令和4年度	令和3年度
ボランティア受入れ	個人	延べ311人	延べ249人
	団体(人数)	団体12(人)	11団体(24人)
ボランティア交流会	実施回数	0回	0回
	参加者数	延べ0人	延べ0人
職場体験・介護等体験受入れ	受入者数	8人	0人
	期間	20日間	0日間

イ 調布市地域包括支援センターゆうあい事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果 指標	介護予防関連事業 参加者数(出前講座、 介護教室)	140人	延べ参加者 439人 ○介護教室(2日間) テーマ「認知症の対応、資源」 ・令和4年6月17日(金) 「認知症を正しく理解し、 早期発見」参加者32人 ・令和4年6月24日(金)

			<p>「自分のために、家族のために地域を知ろう」参加者 22 人</p> <p>○出前講座 16 回 227 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座「10 の筋力トレーニング体験会」 4 回 29 人 ・出前講座「10 の筋力トレーニング立ち上げ支援」 3 回 60 人 ・出前講座「10 の筋力トレーニング継続支援」 7 回 69 人
	地域ケア会議参加者延べ人数	90 人	<p>延べ参加者 125 人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和4年6月16日(木) 「要介護者となり必要となる支援体制」参加者44人 ・第2回 令和4年10月20日(木) 「地域の健康課題から専門職としてできること」参加者28人 ・第3回 令和5年1月31日(木) 「高齢期における医療との付き合い方を皆で学ぶ」参加者53人
	みまもっとPR活動件数	250 件	268 件
評価等	<p>○地域住民が対象となる普及啓発、福祉啓蒙活動については、オンライン化は難しく、適切な感染拡対策を行い、参集形式を継続して行きました。普及啓発、福祉啓蒙の目安となる目標値は達成しました。企業等との協働出前講座を開催することで、高齢期の生活を多様な窓口で支え、対応について工夫していることを周知することが出来たと考えます。地域ケア会議においては、オンライン開催に挑戦しました。地域の実情に合わせ、また、地域課題が解決できる地域力向上のため今後も継続して開催方法、参加者の検討をしていきます。みまもっとPR活動については、地域包括支援センター事業に連動する形で地域ネットワークの拡大、参加協力について努めました。</p>		

調布市内の高齢者人口の最多地区を担当し、地域のセーフティネット、また、地域包括ケアを支える拠点として、高齢者や障害者が地域で安心して暮らせるように、数多くの相談を受けるとともに、医療や介護などの関係機関と密な連携を図りました。とりわけ、医療とのつながりを継続することが大切である高齢期の生活について、①地域の医療機関へのアンケート実施と、②地域ケア会議を開催

し、市民の皆様への医療との付き合い方を学ぶきっかけづくりを実践しました。

また、圏域内の葬儀社、健康飲料販売店との協働、生命保険会社の社会貢献事業の活用等、高齢期を支える視点で多様な企業との連携を多く持ち、出前講座を開催することができました。

(a) 総合相談事業

区分	令和4年度	令和3年度
相談件数	9,276件	8,640件
実態把握人数	908件	933件

(b) 介護予防

新型コロナウイルス感染症の影響で、フレイル状態の高齢者が増えたことを課題と捉えました。地域の集い場の継続支援、立ち上げ支援に努めました。地域の健康課題について、地域の専門職と意見交換する場を持つことができました。

区分		実施日・回数等	参加者数
介護教室	認知症の対応, 資源～認知症を正しく理解し, 早期発見～	令和4年6月17日(金)	32人
	認知症の対応, 資源～自分のために, 家族のために地域を知ろう～	令和4年6月24日(金)	22人

(c) 介護予防マネジメント

区分	令和4年度	令和3年度
介護予防ケアプラン作成件数	2,565件	2,394件
介護予防ケアプラン委託件数	1,082件	1,127件

(d) 権利擁護

令和4年度は出前講座では、市民の皆様に向けた詐欺被害防止の学習会を開催する機会が複数回ありました。調布市総合防災安全課及び関連機関の司法書士等との協働で市民向け普及啓発の実現となりました。引き続き、権利侵害となる事案に対して地域の関係機関との連携をして広く普及啓発ができるよう努めます。

区分	令和4年度	令和3年度
虐待予防相談	158件	160件
成年後見制度の活用推進, 消費者被害の防止等の相談	166件	167件

(e) 包括的・継続的ケアマネジメント支援

令和4年度は152件のケアマネジャーからの相談を受理しました。関係者会議にてケアマネジャーのケアマネジメントを応援する機会も増えました。

研修においては、年間のテーマとして、複合的な課題を有する事例に対応する力をつけることを念頭に、司法、多様な資源との関係づくりについて開催しました。地域ケア会議については、地域包括支援センター内の三職種を中心に課題抽出を行い、地域の多様な参加者と意見交換の場を構築することが出来ました。3回のうち1回をオンライン開催にすることで、開催方法の多様化に努めました。

区分	内容		
ケアマネジャー支援	適正なケアマネジメントのための支援：152件		
ケアマネット・事例検討会	「困難事例を支える連携（司法編）」	令和4年6月14日（火）	49人
	「困難事例を支える連携（社会資源編）」	令和5年1月26日（木）	28人
	事例検討会（勉強会）	令和4年4月28日（木）参加者9人 令和4年5月26日（木）参加者13人 令和4年7月28日（木）参加者9人 令和4年8月25日（木）参加者7人 令和4年9月22日（木）参加者7人 令和4年10月27日（木）参加者8人 令和4年11月24日（木）参加者6人 令和5年3月23日（木）参加者11人	計70人
地域ケア会議	「要介護者となり必要となる支援体制」	令和4年6月16日（木）	44人
	「地域の健康課題から専門職としてできること」	令和4年10月20日（木）	28人
	「高齢期における医療との付き合い方を皆で学ぶ」	令和5年1月31日（火）	53人
地域ケア会議（関係者会議）	担当者が集まって個別事例の課題把握や処遇検討を行う：9件		

(f) 認知症対策

令和4年度はもの忘れ予防検診が開始され、早期発見早期対応について考える機会となりました。医療機関との連携、役割分担などが容易にできるよう、圏域

内医療機関へのアンケート調査を試みました。9月の認知症サポート月間の開催を通じて、認知症の当事者、ご家族が相談や事業参加しやすい関係構築に今後も努めていきます。

区分	内容		
認知症相談	認知症にまつわる相談：142件		
認知症サポーター養成講座	アイセイ薬局（ハーモニー皮膚科）	令和4年6月25日（土）	6人
	※キャラバンメイトとして派遣協力 令和4年7月26日（火）調布ゆうあい福祉公社 介護サービス事業所 令和4年10月25日（火）めじろ作業所 令和4年11月2日（水）市民向け		

(g) 見守りネットワーク事業

イベントや地域の集合型の会議が再開し始め、顔の見えるPR活動ができました。また、地域の介護サービス事業所以外の企業等との協働によるネットワーク強化につながる地域貢献事業を実施することができました。新圏域や、既存のエリアにおいても通報連絡が多く上がるようになり、ネットワークの醸成を感じています。一方で、通報、相談に多様な課題があるため、他職種との連携強化が必須となりました。

区分	令和4年度	令和3年度
通報件数	109件	80件
PR件数	268件	339件

(h) 地域ネットワーク構築

Aゾーン会議の構築を目標として、見守りネットワーク担当が中心になり、ネットワークづくりを推進しました。結果、Aゾーン会議参加者29人となり、多様な職種、役割を持つ方の参加がありました。

区分	実施日・回数等	参加者数他	
広報協力員研修、連絡調整会	① 連絡会	① 8人 7人	
	② 研修会	② 6人	
	PR訪問	新規訪問 1回 ※電話、書類送付	14世帯 14人
	市の世帯状況調査で訪問を希望した高齢者に広報協力員が訪問し、市の施策や事業等の紹介	継続訪問 1回 ※電話、書類送付	4世帯 7人

	民生児童委員と広報協力員連絡会	令和4年5月23日(月)	22人
地域ネットワークづくりのための会議	地域支援推進員等との連絡会		5回
	Aゾーン会議（地域課題解決会議）	① ネットワーク構築会議 令和4年8月18日（木） ② 随時会議 令和4年10月18日（火） ※個別事例の地域ケア会議としてもカウント	① 1回 29人 ② 1回 5人

(i) 出前講座

区分	実施日・回数等	参加者数
「足の爪の健康について」（マンション国領）	令和4年6月18日(土)	13人
「介護保険制度について」（おなかま倶楽部）	令和4年6月22日(水)	5人
「終活について」	令和4年7月13日（水）	30人
「暑い夏でもしっかり食べる！～フレイル予防を中心に～」（マンション国領）	令和4年7月16日(土)	5人
「個人や地域で防ぐ詐欺被害」（マンション国領）	令和4年9月17日(土)	9人
「八雲台秋の集いの場～健康について～」	令和4年9月27日(火)	20人
「高齢者の心理と身体特徴の理解」（ゆうちょ銀行）	令和4年10月14日(金)	8人
「個人や地域でできる消費者被害対策」（マンション国領）	令和4年10月15日(土)	8人
「高齢者の生活に必要な制度を学ぶ」（ゆうちょ銀行）	令和4年11月18日(金)	10人
「詐欺被害について～自動通話録音機の活用方法～」	令和4年11月24日(木)	20人
「高齢化の進む地域の中の図書館の役割～認知症への理解と図書館の役割～」	令和4年11月26日(土)	60人
「ACP（人生会議）を始めてみませんか」（ダブルケアの会）	令和4年12月14日(水)	4人

「感染症について～感染症とはどうい うもの？どんなことに気をつけたら いいの？～」(マンション国領)	令和4年12月17日(土)	10人	
「地域包括支援センターの地域づくり」 (ゆうちょ銀行)	令和5年1月12日(木)	10人	
「終活とその後の手続きについて学ぶ」 (マンション国領)	令和5年2月18日(土)	6人	
「地域包括支援センターの地域づくり」 (サロン・ド・わきあいあい)	令和5年3月7日(火)	9人	
「10の筋力トレーニング体験会」	令和4年6月18日(土) 若草サロン	11人	
	令和4年10月19日(水) くらしの友国領斎場	5人	
	令和4年12月9日(金) くらしの友国領斎場	2人	
	令和4年12月21日(水) 輪投げの会	11人	
「10の筋力トレーニング立ち上げ支 援」	令和4年11月8日(火) よってっ亭	20人	
	令和4年11月22日(火) よってっ亭	21人	
	令和4年12月13日(火) よってっ亭	19人	
「10の筋力トレーニング継続支援」	令和4年5月7日(土) スマホ倶楽部	10人	
	令和4年7月2日(土) スマホ倶楽部	8人	
	令和4年9月3日(土) スマホ倶楽部	9人	
	令和4年12月3日(土) スマホ倶楽部	8人	
	令和5年1月10日(火) みどりの会	11人	
	令和5年1月10日(火) よってっ亭	15人	
	令和5年1月15日(日) スマホ倶楽部	8人	

(j) 一般施策判定業務

区分	令和4年度	令和3年度
判定数	291件	332件

(k) 介護保険要介護認定調査

区分	令和4年度	令和3年度
認定調査件数	8件	5件

ウ 軽度生活援助事業

第2次中期 計画 目標・成果 指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	延べ利用時間数	206 時間	213 時間
	延べ利用者数	36 人	25 人
評価	介護保険制度だけでは対応できないケースに対する支援体制の維持は必要であるため継続していきます。		

認知症の高齢者等に対し、見守りや声かけ等の援助を行い、自立した生活の継続や状態の悪化防止、併せて家族の負担軽減を目的とし継続的な支援を実施しました。

区分		利用者延べ数	サービス提供 延べ時間数	サービス提供 延べ回数
見守り事業	令和4年度	25人	213時間	213回
	令和3年度	27人	215時間	215回

(4) 介護保険事業（自主事業）による自立支援の推進

ア 訪問介護事業，障害者訪問介護事業

第2次中期計画 目標・成果 指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	延べ利用時間数	11,960 時間	10,606 時間
	介護職カフェ（介護技術勉強会） 開催回数（再掲）	4 回以上	4 回
評価等	<p>○延べ利用時間数 人材不足を原因とした障害者訪問介護事業の休止もあり、目標値達成となりませんでした。新たな雇用形態の創出を行い、訪問介護職員の確保やICT化を進め事務作業の効率化を目指します。</p> <p>○介護職カフェ 感染症対策をし、予定通り年4回開催しました。市内の介護職員へ周知し、介護人材の確保・育成、介護職集いの場としての役割も担いました。</p>		

(a) 訪問介護事業

地域のご利用者様が有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるようサービス提供に努めました。サービスの質の向上と福祉人材の育成を目的とし、事業所内で定期的な研修を実施しました。月次で収支確認を行い、適正規模に注視し安定した事業運営を行いました。東京都のデジタル機器導入促進支援事業補助金を活用し、記録システム導入等を進め業務の効率化に努めました。

また、調布市福祉人材育成センターで実施されている介護職員初任者研修の実

技講師を通じ、福祉人材の育成と地域への還元の一助を担いました。Aゾーン会議の構築を目標として、見守りネットワーク担当が中心になり、ネットワークづくりを推進しました。結果、Aゾーン会議参加者29人となり、多様な職種、役割を持つ方の参加がありました。

区分	利用者数（上：延べ人数，下：％）								訪問時間数
	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計	訪問回数
	1	2	1	2	3	4	5		
令和4年度	141	177	242	297	194	105	78	1,234	9,948時間
	11.4	14.4	19.6	24.1	15.7	8.5	6.3	100.0	12,608回
令和3年度	169	193	234	246	109	72	109	1,132	9,108時間
	14.9	17.1	20.7	21.7	9.6	6.4	9.6	100.0	11,962回

(b) 障害者訪問介護事業

人員不足により事業を休止しました。対象者が地域で安心して自立した生活を継続できるよう、他事業所と連携してサービスの移行を行いました。

区分	利用者数	サービス提供時間数	サービス提供回数
令和4年度	89人	658時間	493回
令和3年度	279人	2,652時間	1,950回

(c) 定期研修

区分	回数	参加者数
定期研修	年12回	延べ261人

(d) 介護職カフェ（介護技術勉強会）

区分	実施日	参加者数
介護職カフェ（介護技術勉強会）（再掲）	令和4年6月22日（水） 令和4年8月23日（火） 令和4年11月24日（木） 令和5年2月24日（金）	延57人 延11事業所

イ 居宅介護支援事業，介護保険要介護認定調査事業

第2次中期計画 目標・成果指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	ケアプラン作成数	1,296件	987件 ① 介護 延べ973件 ② 予防 延べ14件

評価等	○ケアプラン作成数 ケアプラン作成数増加のため、職員体制の構築を目指し人員の補填を行いました但し定着しませんでした。また、家族の介護に伴い現職員の業務圧迫が生じ、業務の効率化が図れず、新規獲得及び目標値の達成に至りませんでした。
-----	---

(a) 居宅介護支援、介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

法令順守に基づいたケアプランの作成をするとともに住み慣れた地域でご利用者様の「望む暮らし」の実現を目指し公的制度的利用や多職種との連携を図るほか、地域資源を活用しケアマネジメントを行いました。また、各自が積極的に研修に参加し、ケアマネの質の向上への取組を継続しています。人材の確保ができずケアプラン件数は目標数値を達成できませんでした。同様に特定事業所加算Ⅲの取得も適わない結果となりました。

(上：延べ利用者数，下：%)

年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和4年度	13	1	222	307	179	144	121	987
	1.3	0.1	22.5	31.1	18.1	14.6	12.3	100.0
令和3年度	17	29	263	404	205	151	128	1,197
	1.4	2.4	22.0	33.8	17.1	12.6	10.7	100.0

(b) 介護保険要介護認定調査事業

区分	令和4年度	令和3年度
認定調査件数	3件	4件

ウ デイサービスぷちぼあん事業

第2次中期計画 目標・成果指標	項目	目標値 令和4年度	実績
	延べ利用者数	2,310人 (稼働率75.0%)	2,098人 (稼働率68.0%)
	地域開放支援事業	15回	22回
	家族会開催回数	2回	2回
評価等	○延べ利用者数 新規利用者数より廃止者数が上回り、目標利用者数に達しませんでした。 ○地域開放支援事業		

ひだまりサロンと自治会に加え、子ども食堂への開放を開始しました。
 ○家族会開催
 感染症予防を徹底し、年2回開催しました。

新型コロナウイルス感染症への対策も徹底することができ、職員体制も安定していたため、施設内感染が発生することなく1年を経過できました。家族会や運営推進会議も対面での開催ができ、繋がりやコミュニケーションの大切さを再確認することができました。施設開放では子ども食堂「坂の上のぼあちゃん家」に新規に貸出を開始し、地域との交流も増えました。

認知症の周辺症状（いわゆるBPSD）に伴い、他の一般型のデイサービスでは受入が難しい利用者の受入を行い、職員間のコミュニケーションを重視しながらのサービス提供に努めました。

防災（減災）については、事業所の立地場所が土砂災害警戒区域に一部指定されており、防災備蓄の準備や避難経路計画作成、事業継続計画（BCP）作成を進めました。

(a) デイサービスぷちぼあん事業

区分		令和4年度	令和3年度
認知症対応型通所介護	延べ人数	2,098人	2,057人
	1日平均	8.2人	8.0人

(b) 運営推進会議

情報の公開及び地域との連携・交流を確保し、サービスの質の確保・向上を図るため、ご利用者様の家族や地域住民の代表者、サービスに知見を有する方に委員として参加頂きました。感染症予防を徹底し、予定通り年2回対面開催ができました。

開催日
① 令和4年5月23日（月），②令和4年11月21日（月）

(c) 家族会

計画通り年2回を対面で開催し、家族同士で日頃の介護の悩みや苦労を共有し、認知症への理解を深めることができました。

開催日	参加者数
① 令和4年6月23日（木），② 12月21日（水）	① 1人，②3人

(d) 地域開放支援事業

地域開放支援事業では、11月から新規に子ども食堂への貸出を開始しました。

区分		令和4年度	令和3年度
ボランティア受入れ	活動者数	延べ253人	延べ183人
ひだまりサロン実施支援	実施回数	10回	6回
	参加者数	延べ67人	延べ51人
地域交流会支援	実施回数	1回	0回
	参加者数	9人	0人
施設貸出	貸出回数	11回	0回
	参加者数	241人	0人
施設開放	貸出回数	22回	6回
	参加者数	317人	延べ51人

(5) 公益法人として先駆的な役割を果たすための事業の推進

ア 普及啓発事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	福祉講演会の参加者率	会場定員70%以上	85%
	協力会員・登録ボランティア説明会 延べ参加者数	60人	56人
	出張説明会	10回	6回
評価等	<p>○福祉講演会 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で会場定員の半数で開催し77人参加しました。会場定員80%を超える参加がありました。</p> <p>○協力会員・登録ボランティア説明会延べ参加人数 各地域に出張したり、同月に2回開催するなどしましたが、目標値は達成できませんでした。</p> <p>○出張説明会 地域ケア会議や他包括の行う地域見守り訓練、ケアマネットなどで住民参加の事業説明を行いました。目標回数は達成できませんでした。</p>		

協力会員や登録ボランティアを拡大するため、市内のスーパーや市内大学、市内病院へ出向き、協力会員募集のチラシの掲載など普及啓発に努めました。

住民参加型サービスの活用促進のため、広報紙ゆうあいでは住民参加型サービスの特集を組んで全戸配布し、ひだまりサロン、自治会、公民館等へは出張して住民参加型事業の普及啓発に努めました。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大による事業規模縮小に伴い、目標回数・目標参加人数の達成ができないものが多くありました。そのため、非対面

でも市民の皆様・会員の方々と繋がるためのフェイスブック，協力会員向け公式LINEを活用し情報提供に努めました。また，ZOOMを活用して協力会員サロンやケアラー学習会を開催しました。

事業名		実施回数	参加者数	備考
福祉講演会	市民相互の支え合いとあたたかい地域づくりを目指し，地域福祉・ボランティア活動の啓発	年1回	77人	令和4年11月12日（土）に開催しました。講演会テーマ「自分事として考えよう～認知症のバリアフリー社会とは～」
広報	機関紙「ゆうあいほっとらいん」	年6回	—	2,500部／回
	広報紙「ゆうあい」	年2回	—	13万部／回 (内12万8,000部を市内全域にポスティング，2,000部を関係機関に配架等)
	ホームページ	随時更新	—	イベント情報を随時更新
	SNS（ソーシャルネットワークワーキングサービス）	随時更新	—	フェイスブック，協力会員向け公式LINEによる情報提供
出張説明会		年6回	150人	地域ケア会議，他包括主催地域見守り訓練，ケアマネット等
協力会員・登録ボランティア説明会		年56回	延べ56人	「ちょこっとさん」登録ボランティア説明会と共催
ゆうあいフォークダンス友の会「フレンズ」「すみれ」		各月3回	—	生きがい介護予防講座修了者の自主グループ

調布市食事サービス連絡会	市内配食事業者との連絡会において、情報・課題の共有，課題解決への検討	年1回	4事業者より 13人参加	テーマ「各団体の近況及び食材・日用品の価格高騰における対策について」
家族介護者支援事業（再掲）	だれでもカフェ（認知症カフェ）	月1回 （計13回）	参加者 延べ190人	○だれでもカフェこくりょう（毎月第4日曜日）※10の筋力トレーニング，ハンドベル，男性介護者のつどい等 ○だれでもカフェぷちぼあん 令和4年9月4日（日） 参加者11人
	調布市認知症高齢者等を介護するケアラー支援マップの改訂 ※広報に再掲	年1回	—	令和5年2月5日（日） 広報紙ゆうあい25号にて第11版を掲載。 ケアラーを支えるグループ15件，相談窓口，地域密着型サービス等の情報を掲載
	家族介護者向け介護技術講座	年3回	128人	○「体感して学ぶ介護のコツ」をぷちぼあんで開催 令和4年9月4日（日） 参加者3人 ○飛田給地区協議会防災訓練 令和5年3月5日（日） 参加者92人 ○傾聴の基本を学ぼう 令和5年3月16日（木） 参加者33人
認知症サポーター養成講座（再掲）	認知症サポーター養成講座	53回	1,322人	地域で開催される認知症サポーター養成講座の実施，キャラバンメイトの調整・派遣
	認知症サポーターフォローアップ	1回	41人	地域見守り訓練の実施，認知症の人を介護

	研修			する家族への理解を深める講演会（9月開催予定だった地域見守り訓練は新型コロナウイルス感染症の影響のため中止）
	認知症サポーターの活躍の場リスト	1回	—	認知症サポーター活躍の場の情報を更新・発行し市内全戸配付
ケアラーサポートブック（再掲）		年1回	発行1,500部	令和5年3月発行。市、包括支援センター等関係機関、ケアラー支援団体、市民へ配布。

イ 人材育成事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む）	200人	201人
	ゆうあい福祉セミナーの参加人数	15人	37人
	介護職カフェ（介護技術勉強会）、及び福祉専門職スキルアップ研修の延べ参加人数（再掲）	4回以上	4回 延57人（延11事業所）
評価等	<p>○協力会員研修延べ参加人数（市民公開講座に参加した市民を含む） 参加人数が減少傾向にありました。様々なニーズに応じることができるよう各種研修の充実に努めていきます。</p> <p>○ゆうあい福祉セミナーの参加人数 令和5年1月25日（水）に「しっかり噛んで認知症予防！オーラルフレイルについて考える」を開催し、37人が参加しました。</p> <p>○介護職カフェ 感染症対策をし、予定通り年4回開催しました。市内の介護職員へ周知し、介護人材の確保・育成、介護職集いの場としての役割も担いました。</p>		

公社の理念である「市民相互の助け合い」と「自立支援のための質の高いサービスの提供を通じてあたたかい地域づくり」を推進するために、介護の担い手や協力会員及びボランティアの育成、並びに専門資格の取得を目指す実習生の受入れや各種講座・研修等の開催など、様々な「学びの場」を提供し、介護や地域福祉の担い手となる人材育成に努めました。

本事業において、住民参加型在宅福祉サービス事業と地域包括支援センターの事業を併せ持つ公社は、介護保険事業について総合的に学べる法人として、医療、福祉及び教育など裾野の広い分野における育成・実習機関となっています。

また、地域においては、各種の講習会・勉強会等に、公社の職員を講師として派遣するなど福祉サービス向上に貢献しています。

事業名及び内容		実施日又は回数	参加者数		
ゆうあい福祉セミナー	「しっかり噛んで認知症予防！オーラルフレイルについて考える」	令和5年1月25日(水)	37人		
実習生の受入れ	大学，専門学校等から社会福祉援助技術や教員免許取得等の実習	77日	20人		
福祉専門職講師派遣	地域の福祉人材育成を支援するため公社職員を派遣	57時間	延べ20人		
協力会員研修・登録ボランティア研修	定例会	協力会員の交流を深めるとともに地域づくりの一員としての役割を学ぶ	年4回	延べ34人	
	基礎研修	協力会員登録時に活動のための基礎を学ぶ	年38回	延べ38人	
	食事サービス	新人研修	調理実地研修	8日コース	8人
			配達実地研修	4日コース	12人
		スキルアップ研修	食品衛生講習	1回	31人
			調理実習	1回	31人
			安全運転講習	1回	49人
	ホームヘルプサービス	スキルアップ研修	車いすの介助方法の講習	1回	6人
介護予防サロン	高齢者でも参加できる社会参加の	グリーンクラブ	月2回	延べ43人	

	機会提供, 介護予防・ 地域づくり に向けた支 援	おなかま クラブ	月1回	延べ55人
認知症サポーター養成 講座事業（再掲）	認知症サポーター養成 講座		35回	1,059人
	認知症サポーターフォ ローアップ研修		2回	66人
	認知症サポーターの活 躍の場リスト		1回	更新・発行
介護職カフェ（介護技 術勉強会）（再掲）	市内サービス提供事業 者向けに開催し、介護 技術の向上やサービス 事業者間のネットワー ク構築を図る		4回 令和4年6月22日（水） 令和4年8月23日（火） 令和4年11月24日（木） 令和5年2月24日（金）	延57人 延11事業所

ウ 調査研究開発事業

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期 計画 目標・成果 指標	実践活動報告数	1回	実施なし
	調査実施数（内部調査、実証 研究調査、新規・改善事業調 査）	2回	2回
評価等	<p>○実践活動報告 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い実践活動報告の場はありませんでした。</p> <p>○調査実施数 フレイル予防のアンケート調査については、総合事業通所型サービス（市基準）において令和2年度から調査を開始し、継続的にデータの蓄積をしています。令和3年度は低栄養予防も重視し、6月、12月に食事摂取アンケートを行い、令和4年度も継続的に食事摂取アンケートを取っています。また一般高齢者への低栄養予防講座後にアンケートをとりました。</p>		

取組	内容
実践活動報告	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い活動報告の実施はありませんでした。

関係協議会等への参加	公社事業の実践活動を生かし、調布市内・外の医療・福祉・介護に関する28協議会等に参画しました。
------------	---

(6) 健全な公社運営

ア 法人運営及び組織体制の強化・充実

新型コロナウイルス感染症の第7波の拡大を受けて、食事サービス事業や国領高齢者在宅サービスセンター事業で休止を余儀なくされるなど、事業活動において少なからず影響がありました。これらの現状を踏まえ、令和4年度は、各部門の職員から構成されるBCP（業務継続計画）推進委員会を立ち上げ、事業の継続と利用者等の安全・安心を両立していくことについて協議しました。

人材の確保・育成については、恒常化する人材不足を少しでも解消していくため、令和4年度は、限定正社員制度の構築に努めました。この制度は、令和5年度からの施行となりますが、これにより、訪問介護事業に携わる一部の嘱託職員を、限定正社員に転換する予定です。また、居宅介護支援事業においては、早期の欠員の充足に努め、特定事業所加算の取得に向けた体制を整え、人材の定着や育成につなげていきます。このほか、業務の効率化を目的として、訪問介護事業においては、東京都デジタル機器導入促進支援事業補助金を活用し、ヘルパーの介護記録や報告を電子化するシステムを導入しました。バックオフィス部門においては、労務管理に関する現行システムの一部を見直しました。

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期計画 目標・成果指標	労働安全衛生に関する研修実施	2回以上	<ul style="list-style-type: none"> 6月に、職員各自がハラスメント対策マニュアルや厚労省コンテンツ動画を活用し、ハラスメント研修を実施しました。 9月に、管理職のためのメンタルヘルス講習会「カスタマーハラスメント研修（動画視聴）」の自主研修を実施しました。 令和5年2月16日（木）に、「ハラスメント防止から、より良い職場環境作りへ」をテーマに、特定社会保険労務士によるハラスメント研修を行いました。
	年次有給休暇の取得促進	65%	78.5% ・正規職員 12/26人

			46.2%(令和4年1月付与から1年間) ・非常勤職員 61/67 人 91.0%(令和4年4月付与から1年間)
	全職員の所定外労働時間(年間)	7,000 時間	5,740 時間 次世代育成支援対策推進行動計画に基づき、ノー残業デー等の取組を推進しました。
	主任ケアマネジャーの人数	3人以上	4人
	全職員の外部研修参加割合	55%	33% (33人参加/全職員100人中)
評価等	<p>○令和3年3月に策定した一般事業主行動計画に基づき、ICTの活用や業務の効率化を図り、所定外労働時間の年間時間の目標を達成することができました。</p> <p>令和3年度の介護報酬改定において、全ての介護サービス事業者に、ハラスメント対策における必要な措置を講ずることが義務づけられたことから、令和4年5月に、「ハラスメント防止対策に関する基本方針」及び「ハラスメント対策マニュアル」を策定し、研修等をとおして職員への周知を図りました。</p>		

区分	内容
会員・ボランティア基盤の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に栄養系大学・短大に向けボランティア募集チラシを配布しました。(Googleフォーム活用) ・6月に協力会員自宅マンションエントランスにポスターを掲示しました。 ・6月に調布ヶ丘地区にチラシ(2,000部)をポスティングしました。 ・6月に図書館国領分館、市民活動支援センターにポスターを掲示しました。 ・7月に八雲台地区にチラシ(2,000部)をポスティングしました。 ・令和4年10月5日(水)に広報紙ゆうあい24号(130,000部)発行、住民参加型サービス・支え合い活動等を掲載、賛助会員(振込用紙付)募集を並行して実施しました。 ・(継続)公式LINE開設(協力会員向けの情報発信)を継続しています。 ・(継続)京王バス車内広告/協力会員募集を継続しています。

P D C Aマネジメントサイクル構築	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗状況確認シート，月次損益推移表を作成し，経過や状況等の把握に努め，適宜理事会等に報告しました。
制度改正などへの対応・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・同一労働同一賃金，人材育成等に係る社労士との打ち合わせを実施しました。（令和4年5月30日（月），令和4年6月27日（月），令和4年8月29日（月），令和4年9月26日（月），令和4年10月31日（月），令和5年1月30日（月）） ・10月東京都最低賃金改定（1,072円）の対応を実施しました。 ・10月「介護職員等ベースアップ等支援加算」を制度化しました。 ・3月「限定正社員」を制度化しました。 ・休暇制度（付与基準日，半休制度）の検討・見直しを実施しました。
労務管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・《再掲》令和5年2月16日（木）に，「ハラスメント防止から，より良い職場環境作りへ」をテーマに，特定社会保険労務士によるハラスメント研修を行いました。 ・毎月，衛生委員会を実施しました。
専門資格の取得の促進	自主研修制度の活用について，周知しました。
将来を担える職員の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員の人事評価面談（5月期首，9月期中，3月期末）を実施しました。また，人事評価運用をより効率的・効果的に行うためのシステム導入を検討しました。 ・令和4年12月22日（木）ケースカンファレンス（全体研修）実施「私たちのプロ意識を考える～プロの介護とは何か？を理解する～」を行いました。 ・正規職員を対象に，個々人のやりがいなどを把握し，多様な価値観を持つ職員の個の力を生かしていくことを目的として，性格検査を実施しました。
I Tシステム活用による業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・11月東京都令和4年度デジタル機器導入促進支援事業を活用し，訪問介護ICTシステムを導入しました。 ・12月人事労務に係る業務効率化を図るため，システムの一部見直しを行いました。 ・人事評価システム導入に向けた検討をおこないました。
危機管理（リスクマネジメント）の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月29日（水）調布市の災害時における協定関係機関との意見交換会に参加しました。

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年8月1日(月)BCP推進委員会を立ち上げ、業務継続計画の策定に向けて検討を行いました。 ・令和4年9月11日(日)国領地区協議会主催防災訓練「地域 みんなで避難所を開設してみよう」職員2名が参加しました。 ・令和4年12月23(金)調布市防災訓練シミュレーションに参加しました。 ・1月の第3回理事会で、「上半期苦情解決状況」「上半期事故報告」を報告しました。
--	--

イ 自主的、自立的経営に向けた財政基盤の強化

自主事業においては、居宅介護支援事業の特定事業所加算の取得が適わず、単体において収支のバランスを欠く結果となりました。訪問介護事業、デイサービスぷちぼあん事業は、新規利用の獲得などをすすめたことにより、比較的堅調に推移しました。3事業合計としては、令和4年11月に導入した訪問介護支援システム導入に係る経費負担もあり、小幅ですが赤字となりました。

補助事業・委託事業においては、食材費や光熱水費などの物価高騰の影響を注視しながらの事業運営となりました。特に、食事サービス事業においては、この影響が顕著であり、食事サービス連絡会をとおして、同業他社の状況把握を行い、公社の提供するサービスの価格見直し等について内部で検討を重ねました。

	項目	目標値 令和4年度	実績
第2次中期 計画 目標・成果 指標	自主事業の収支 (3事業合計)	収支均衡(±0)	△33万5,691円
	モニタリングシート対策達成率	70%	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護 100% ・居宅介護支援 33.3% ・ぷちぼあん 80.6%
	賛助会員数	260人	284人 (内訳 個人278人, 6団体)
評価等	<p>居宅介護支援事業において、人員の確保がままならず、令和3年10月に取下げた特定事業所加算の再取得には至らず、大きく収支バランスに欠く状況が続いており、早急な対応・改善が必要な状況です。</p> <p>自主3事業全体として、小幅な赤字にとどまったものの、厳しい決算となりました。</p> <p>賛助会員については、広報紙ゆうあい等によるPRをはじめ、新規会員獲得に向けて積極的に取り組みました。</p>		

区分	内容
モニタリングシートの活用	モニタリングシートを作成し、経営状況の把握に努めました。
寄付金収入の拡充	ファンドレイジング（WEB決済・クラウドファンディング等）の新たな手法について検討しました。
賛助会員の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・6月末日に138人の賛助会員に継続依頼を送付しました。公社食事サービス試食会を実施し、公社事業への理解をより深める働きかけを行いました。これにより、食事サービス事業の新規利用につながりました。 ・令和4年10月5日（水）広報紙ゆうあい発行、住民参加型サービス活動紹介、賛助会員募集の郵便振込用紙付きを送付し、16件の新規会員の獲得（59,000円）につながりました

5 その他の報告事項

(1) 役員等及び会議に関する事項

ア 役員等名簿（令和5年3月31日現在）

(a) 理事・監事

役職名	氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	田口学	理事	西田伸一	理事	三浦詩子
副理事長	橋本郁子	理事	町田裕子	監事	老川多加子
常務理事	塚本栄	理事	泰山涼子	監事	立崎美香子

(b) 評議員

氏名	氏名	氏名	氏名
小西健博	宇治和子	荻本末子	荒井敏
古屋育子	田中晶子	相田光一	野澤薫

イ 会議の開催

(a) 理事会

開催年月日	件名	結果
令和4年4月26日 （第1回定時）	<ul style="list-style-type: none"> ・専決処分の承認について（令和3年度収支補正予算第2号） ・専決処分の承認について（令和3年度収支補正予算第3号） ・令和3年度事業報告（案）について ・令和3年度収支決算（案）について ・理事候補者の選任について 	承認 承認 可決 可決 可決

	<ul style="list-style-type: none"> ・監事候補者の選任について ・令和4年度定時評議員会の招集について ・理事長及び常務理事の職務の執行状況について ・令和3年度下半期苦情解決状況について ・令和3年度下半期事故報告について 	<p>可決 可決 報告 報告 報告</p>
令和4年5月12日 (第1回臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第1回臨時理事会の議長の選出について ・理事会役員(理事長)の選定について ・理事会役員(副理事長)の選定について ・理事会役員(常務理事)の選定について 	<p>可決 可決 可決 可決</p>
令和4年9月16日 (第2回定時)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員等ベースアップ等支援加算に関する取扱規程の制定(案)について ・介護職員処遇改善加算に関する取扱規程の改正(案)について ・嘱託職員等就業規則の改正(案)について ・ホームヘルパー就業規則の改正(案)について ・家事援助ヘルパー就業規則の改正(案)について ・理事長及び常務理事の職務の執行状況について 	<p>可決 可決 可決 可決 可決 報告</p>
令和5年1月20日 (第3回定時)	<ul style="list-style-type: none"> ・専決処分の承認について(令和4年度収支補正予算第1号) ・専決処分の承認について(令和4年度収支補正予算第2号) ・専決処分の承認について(給与規程の改正) ・理事長及び常務理事の職務の執行状況について ・令和4年度上半期苦情解決状況について ・令和4年度上半期事故報告について ・令和5年度事業計画(素案)について ・令和5年度収支予算(素案)について 	<p>承認 承認 承認 報告 報告 報告 報告 協議 協議</p>
令和5年3月3日 (第2回臨時・書面)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事候補者の選任について ・評議員候補者の選任について ・令和4年度第1回臨時評議員会(決議の省略)の開催について 	<p>可決 可決 可決</p>
令和5年3月3日 (第3回臨時) (合同報告会)	<ul style="list-style-type: none"> ・副理事長の選定について 	<p>可決</p>
令和5年3月10日 (第4回定時)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業計画(案)について ・令和5年度収支予算(案)について ・令和4年度第2回臨時評議員会の招集について ・令和4年度決算見込(自主事業)について 	<p>可決 可決 可決 報告</p>

※「承認」は専決処分に係る案件

(b) 評議員会

開催年月日	件名	結果
令和4年5月12日 (第1回定時)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告について ・令和3年度収支決算について ・理事の選任について ・監事の選任について 	可決 報告 報告 報告
令和5年3月3日 (第1回臨時・書 面) (合同報告会)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事の選任について ・評議員の選任について 	可決 可決
令和5年3月24日 (第2回臨時)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業計画について ・令和5年度収支決算について ・令和4年度決算見込(自主事業)について 	報告 報告 報告

(2) 公社外部委員会等一覧表及び実習生受入実績

ア 公社外部委員会等一覧表

1	「調布市見守りネットワーク事業」関係団体ネットワーク会議Bゾーン
2	調布市健康危機管理対策本部連絡会
3	調布消防署住宅防火等推進協議会
4	調布市高齢者救急業務連絡協議会
5	調布地域精神保健福祉ネットワーク連絡会
6	調布市障害支援区分判定審査会
7	認知症対応型通所介護事業所連絡会
8	調布市タクシー券のあり方検討委員会
9	介護保険サービス事業者調布連絡協議会(役員会・委員)
10	調布市社会福祉協議会(評議員)
11	社会福祉法人くすのき会(評議員)
12	(第11期)調布市地域福祉推進会議
13	調布市福祉人材研修センター会議(運営委員会)
14	全国食支援活動協力会
15	調布市食事サービス連絡会
16	調布市相談支援包括化推進会議/本会
17	調布市相談支援包括化推進会議/部会
18	調布市高齢者福祉推進協議会
19	住民参加型たすけあい活動部会
20	調布市養護老人ホーム入所判定委員会
21	調布市高次脳機能障害者支援機関連絡会
22	調布市在宅療養推進会議
23	地域密着型サービス運営推進会議
24	地域包括支援センター運営等協議会
25	介護保険認定審査会
26	調布市認知症連携会議
27	こくりょうみんなの広場(国領小学校地区協議会)運営委員会
28	くすのき商店会

29	東京都社会福祉協議会
30	NPO高齢者を支える学術的チームアプローチ推進ネットワーク理事会
31	社会福祉法人経営者協議会

イ 実習生受入実績(介護職員初任者研修・社会福祉士・看護師)

学校名等	実習名	日程	日数	人数
慈恵第三看護専門学校	看護実習	5/12	1日	2人
法政大学	ソーシャルワーク実習 (社会福祉士)	8/1～9/2	24日	1人
調布市	社会福祉援助技術現場実習	8/29～30	2日	2人
杏林大学保健学部	公衆衛生看護学実習 I	8/31～9/13	5日	4人
日本女子大学	ソーシャルワーク実習 (社会福祉士)	9/2～10/31	24日	1人
-	介護等体験	9/5～9/30	各5日	8人
東京慈恵会医科大学医学部看護学科	在宅介護論実習	2/16～17	2日	2人
		合計	78日	20人

(3) 職員研修の実績

ア 業務研修

No.	研修日	研修名	主催	会場	研修日数	参加人数	参加日数
1	R4. 4. 21	調布市もの忘れ予防検診に関する研修会	調布市医師会	オンライン研修	1	1	1
2	R4. 5. 17～ R4. 5. 25	令和4年度「擁護者による高齢者虐待対応研修(基礎研修・第1回)」	東京都福祉保健財団	あいおいニッセイ同和損保新宿ビル	3	1	3
3	R4. 5. 18～ R4. 5. 27	令和4年度東京都認知症対応型サービス事業管理者研修(第1回)	東京都社会福祉協議会東京都福祉人材センター研修室	オンライン研修	3	1	3
4	R4. 6. 14	2022年10月～社会保険の適用拡大 解説・対策セミナー	PCA	オンライン研修	1	1	1
5	R4. 6. 22	「認知症の方への理解を深めよう」～関係性を構築してケアへと繋ぐ～	訪問介護アットリハ	オンライン研修	1	1	1
6	R4. 6. 29	2022年度看護学科実習教育学習会～実践力を高めるための臨床との協働 実践編～	東京慈恵会医科大学医学部看護学科臨地実習委員会	オンライン研修	1	1	1
7	R4. 7. 20	統合失調症を持つ方への対応について～症状の捉え方から適切な対応まで詳しく解説～	指定訪問看護アットリハ	オンライン研修	1	1	1
8	R4. 7. 29	第23回緩和ケアチームオープンカンファレンス(WE B開催)『アドバンス・ケア・プランニング(ACP)についてPart. 4』“もしバナゲーム”をやってみよう!	東京慈恵会医科大学病院第三病院がん診療センター	オンライン研修	1	1	1
9	R4. 8. 2	令和4年度認定調査員新規研修(臨時的取り扱い)	東京都福祉保健局高齢社会対策部介護保険課	オンライン研修	1	1	1
10	R4. 8. 3	令和4年度認定調査員新規研修	東京都福祉保健局高齢社会対策部	eラーニング	1	1	1

11	R4. 8. 31	令和4年度東京都認定調査員現任研修	東京都福祉保健局 高齢社会対策部介護保険課	オンライン研修	1	2	1
12	R4. 10～ R4. 12. 8	高齢者虐待防止研修～基礎的知識から、事業所における高齢者虐待防止に向けた具体的取組み～	東京都福祉保健財団	なかのZERO	2	1	2
13	R4. 10. 17～ R4. 10. 18	令和4年度東京都地域包括支援センター職員 現任者研修	東京都福祉保健財団	オンライン研修・東京都福祉保健財団多目的室	2	1	2
14	R4. 11. 7	令和4年度第2回介護支援専門員調布連絡協議会 生活困窮者生活保護制度について～生活保護の利用者さんへの対応に強くなる！～	介護支援専門員調布連絡協議会	オンライン研修	1	1	1
15	R4. 11. 11	令和4年度第2回東京都キャラバン・メイト養成研修	東京都福祉保健局 高齢社会対策部在宅支援課	新宿NSビル	1	1	1
16	R4. 11. 24	高齢者虐待の防止について支援者として知っておきたいこと	調布市地域包括支援センター	あくろすホール	1	1	1
17	R4. 11. 30	令和4年度調布市介護支援専門員研修「ケアプラン作成研修」	調布市福祉健康部 高齢者支援室	オンライン研修	1	1	1
18	R4. 11. 30	令和4年度公益法人テーマ別セミナー第4回	内閣府公益認定等委員会	オンライン研修	1	1	1
19	R4. 12. 1～ R5. 2. 24	アセッサー講習	シルバーサービス 振興会キャリア	オンライン研修	3	2	3
20	R4. 12. 3	第35回ニッセイ財団シンポジウム「高齢社会を共に生きる」つながる支援の展開と人生100年時代の地域・まちづくり-コロナ禍を乗り越えて-	日本生命財団	オンライン研修	1	1	1
21	R4. 12. 5	令和4年度調布市認定調査員新規研修	調布市福祉健康部 高齢者支援室	動画視聴・調査員証作成手続き	1	1	1
22	R4. 12. 12～ R5. 1. 10	あたりまえに、暮らしていく これからの認知症ケアに求められること	日本認知症ケア学会	オンライン研修	1	1	1
23	R4. 12. 15～ R4. 12. 20	地域包括支援センター職員交換研修	調布市福祉健康部 高齢者支援室	地域包括支援センターときわぎ 国領	2	1	2
24	R4. 12. 21	令和4年度調布市認定調査員現任研修	調布市福祉健康部 高齢者支援室	オンライン研修	1	1	1
25	R5. 1. 26	黒字の時はどうすれば？収支相償のホント-内閣府「特費のすすめ」を解説！-	全国公益法人協会	全国町村議員会館	1	1	1
26	R5. 1. 27	認知症サポーター養成講座	公社	文化会館たづくり	1	1	1
27	R5. 2. 15	ちょうふ地域リハビリテーション連絡協議会2回目	ちょうふ地域リハビリテーション連絡協議会	オンライン研修	1	1	1
28	R5. 2. 24	障害者虐待防止研修	調布市社会福祉協議会	調布市福祉人材育成センター	1	1	1

イ 社内研修

No.	研修日	研修名	主催	会場	研修日数	参加人数	参加日数
1	R4. 6～8	介護現場におけるハラスメントに関する職員研修	公社	オンライン研修	1	70	1
2	R4. 8. 25	福祉・介護関係事業所における個人情報保護法 2022	公社	公社	1	32	1
3	R4. 9	カスタマーハラスメント研修（管理職向け）	公社	オンライン研修	1	4	1
4	R4. 12. 22	「私たちのプロ意識を考える～プロの介護とは何か？を理解する～」	公社	公社	1	35	1
5	R5. 2. 17	ハラスメント防止からより良い職場環境作りへ	公社	公社(またはzoom)	1	15	1

(4) 事業報告書附属明細書について
該当なし